令和５年度
苫小牧市美術博物館事業評価報告書

（令和４年度美術博物館自己点検評価に関する報告）

令和６年５月

苫小牧市美術博物館協議会

目　　次

１　はじめに　・・・　２

２　苫小牧市美術博物館自己点検評価の流れ　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３

３　自己点検評価の結果　・・・　５

⑴　展示事業　・・　５

⑵　教育普及事業　・・・　７

⑶　資料の収集・保存　・・　７

⑷　調査研究活動　・・・　８

⑸　管理運営　・・　９

４　自己点検評価シート（一次・二次評価）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１１

５　これからの美術博物館のあり方について　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２２

６　苫小牧市美術博物館協議会委員名簿　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２３

１　はじめに

当館は、国内でも数少ない美術館、博物館、埋蔵文化財センターとしての３つの機能を有しております。それらの共存する機能を活かし、市民が美術・歴史等に触れ、学習によって豊かな感性を育てるとともに、歴史・考古・自然史の各資料や美術作品を収集・保存、調査研究し、市の財産として後世へ継承していくことが当館の使命であり、この使命に基づき３年毎に「苫小牧市美術博物館実施計画」を策定しております。

令和４年度は、「苫小牧市美術博物館実施計画」の３期目（令和２～４年度）の最終年にあたり、１期目、２期目で取り組んできた教育普及、調査研究、資料の収集・保存の各活動を深めていくことを方針として努めてまいりました。３期目の１年目、２年目については、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を受け、臨時休館や講演会、イベントを中止・縮小するなど、計画した事業を満足に行えない期間でありました。しかし、最終年の３年目は、新型コロナウイルス感染症の影響も縮小し、ほぼ計画通りに事業を実施することができ、全体的な入館者数は大幅に増加しました。また、各分野において学芸員の調査研究の成果を基にした展覧会を開催し、当館の独自性を示すことはできたと考えています。

この実施計画で示した目標の達成度を検証するためには、様々な方法で評価を行う必要があります。そのため、当館ではアンケート等により事業に対するご意見やご要望を伺い、事業の結果についての自己評価（一次評価）を行いました。その結果を踏まえて美術博物館協議会委員による外部評価（二次評価）を行っていただきました。自己評価と外部評価をまとめた本報告書を公開するとともに、これからの博物館活動の改善に活かしてまいります。

令和６年５月

苫小牧市美術博物館
館長　藤原　誠

2　苫小牧市美術博物館自己点検評価報告の流れ

■概要

苫小牧市美術博物館自己点検評価報告は、現在行っている活動を振り返り、適正に行われているかどうかを自己点検することで課題や反省を自覚し、改善点の検討につなげるものである。

■自己点検評価の流れ

年度当初

「公益財団法人日本博物館協会 博物館自己点検システム」を基にした評価指標（年間目標）の設定

↓

年度末

【一次評価（自己評価）】

評価指標を基にした評価	具体的な内容を総括的に評価	客観的な視点
自己点検評価シート ・大項目は「苫小牧市美術博物館実施計画」に基づき設定（大別すると５事業の活動計画に分類） ・必要に応じて、利用者の声であるアンケート結果を反映させる ・スタッフ全員による評価結果の中央値を館による一時評価とする	Ⅰ.展示事業、Ⅱ.教育普及事業に関する報告と評価 ・事業内容、観覧者・参加人数、アンケート内容等の報告及び所見 Ⅲ.資料の収集、保存に関する評価 ・該当する方針に基づいて収集し、適正に管理をしているか、どうかを評価 Ⅳ.調査・研究に関する報告と評価 ・各学芸員の１年間の研究テーマに基づく業務内容の報告及び所見 Ⅴ.管理運営に関する評価 ・施設の改善に努め、効率的に運営管理しているか、どうか等を評価	公益財団法人　日本博物館協会「博物館自己点検システム」参照 ・全国の博物館・美術館の自己点検に使用されている点検システムを参考資料に採用する

【二次評価】
一次評価を美術博物館協議会に提出。各委員が活動内容や評価指標（目標）の達成度を第三者の目線でチェックしたものを二次評価とする。

一次評価と二次評価をまとめ、苫小牧市美術博物館事業評価報告書を作成する。

３　自己点検評価の結果

⑴　展示事業

【方針】

博物館と美術館の複合施設として、様々な展示活動を実施します。

①　複合施設としてそれぞれの特性を活かした新しい視点による事業を実施します。

②　常設展の情報の更新やデータの追加など、常設展の充実に努めます。

③　他都市館園や地元企業、外部機関と積極的に連携を進め、様々な特別展、企画展を開催します。

＜一次評価（美術博物館による自己評価）による総評＞

①　特別展

特別展は特定の分野や主題で企画するもので、外部からの資料借用等も積極的に行い、これらを通して外部機関と連携を図るなど、当館の企画展示室で実施する展示会としては、もっとも規模の大きいものと位置付けており、基本的に毎年１回開催していますが、令和４年度は２回開催しました。

トヨタ自動車北海道株式会社創業 30 周年記念事業「芸術の都ウィーンとデザインの潮流」は、トヨタ自動車北海道の支援により実現した展覧会です。19 世紀末ウィーンの絵画作品をはじめ、20 世紀にかけての家具や調度品といったデザインの優品とグスタフ・クリムト、エゴン・シーレ、オスカー・ココシュカらの作品を中心に“芸術の都ウィーン”の精華と、そこを起点として花開いた工業デザインの潮流について紹介しました。

「壁画《芽の出る音》設置 50 年記念　谷内六郎展」は画家・谷内六郎が原画を手掛けた壁画《芽の出る音》が苫小牧市科学センターに寄贈されてから 50 年を迎えたことを記念し、「週刊新潮」の表紙原画など約 60 点の作品を紹介しました。

②　企画展

企画展は自然・歴史・考古・文化芸術の分野において学芸員の調査研究の成果を元に、特定のテーマを掘り下げたり、広く捉えたりする展示会で、年に数回開催しています。単一の専門分野で行うほか、複数の分野を横断する展示会があり、当館収蔵資料や外部からの借用資料・制作委託作品などにより構成されます。

「アイヌ刀ーエムシ・タンネプイコロ・タクネプイコローー」は、アイヌ刀関連資料として 184 点が当館に収蔵されていますが、そのことはあまり知られていません。そこで、これらの資料を知ってもらうことやアイヌ刀と日本刀の違い、アイヌにとっての刀のありようなどを通して、アイヌ文化や和人とアイヌとのつながりを紹介しました。

「あみゅー大博覧会２０２２」は、当館が収蔵する美術、歴史、考古、自然の４分野の資料のうち、これまであまり公開されてこなかった資料を中心に、「エピソードのある資料」や「学芸員お気に入りの資料」など５つのテーマに分けて約 120 点

を展示しました。当館が幅広い分野の資料を多く収蔵していることと、それらを収集する意義について紹介しました。

「生誕 100 年記念　能登正智展　青い風を見つめて」は、油彩画、ガラス絵、木版画など多様な表現方法の絵画を制作し、戦後の苫小牧における文化芸術の中心的な人物の一人として活躍した能登正智の生誕 100 年を記念し、初期から晩年に至るまでの作品を紹介しました。

③　収蔵品展

「動物の絵」は、私たちの暮らしになじみ深く、目にすることも多い身近な動物が描かれた作品を選出し、異なる出自の画家たちによって描かれ、それぞれの心象風景を個性豊かに映し出した動物たちの姿を紹介しました。

④　中庭展示

「vol.18 川上りえ　Yet We Keep Seeking for a Balance 2022」は、鉄という素材そのものや様々な芸術表現を通して、物事の本質について考察する美術家・川上りえのステンレス製の新作を展示していただきました。

⑤　他機関連携による展示

「全国都市緑化北海道フェア関連展示」は、色や形をそのまま残した立体的な植物標本を展示し、苫小牧に自生する植物の多様性を紹介しました。

「ウトナイ湖野生鳥獣保護センター20 周年記念展示」は当館が所蔵する鳥類の剥製を同センター内に展示し、ウトナイ湖の様々な環境に生息する鳥類の姿を紹介しました。

令和４年度は、コロナ禍の影響は受けましたが、前年度のような臨時休館はなく、全体的な入館者数は大幅に増加しました。また、各分野において学芸員の調査研究の成果を基にした展覧会を開催し、当館の独自性を示すことはできたと考えています。

＜二次評価（美術博物館協議会委員による評価）＞

評価の中央値：A

・事業展開のペースがマンネリ化している。特別展・企画展の期間を短くし、回数を多くすることを考えてほしい。
・様々な展示を企画していて、とても工夫されていると思います。
・美術館としての常設展示への意欲が低い。
・企画展に比べ、常設展示物や所蔵品に対するＰＲが弱いように見受けます。もっとアピールして良いのでは。

⑵　教育普及事業

【方針】

子どもから高齢者まで幅広い市民を対象にした多彩な教育普及事業を実施します。

①　市民の自然、歴史、考古および文化芸術への多彩なニーズに応えるため、各種講演会、講座、ワークショップなど多彩な事業を展開します。

②　学芸員の専門性を活かした事業を実施し、学ぶ喜びを得る機会を提供します。

③　学生や教員など学校教育と連携し、子どもたちの学習意欲や豊かな心を育みます。

④　市民がより深く学べる場をつくり、次世代の担い手を育てます。

＜一次評価（美術博物館による自己評価）＞

教育普及事業は、通年プログラムのうち「美術博物館大学講座」、「子ども広報部びとこま」、「古文書解読講座」は人気事業として定着しています。また、令和４年度に初めて開催した「考古学講座」も総参加者数 78 名と人気を博しました。体験プログラムのうち無料観覧日である「ゴーゴーミュージアム（５月５日）」は、コロナ禍の影響からイベントを中止し、観覧のみとしましたが、「美術博物館祭 2022」は３年振りに実施することができ 1,000 名を超える方が参加しました。学校連携プログラムのうち、「郷土学習」は小学校３・４年生の社会科授業として学校からの評価も高く、美術のアウトリーチ事業「みゅーじあむ in スクール」とともに当館と児童との接点となる事業になっています。さらに例年、小中学校の夏休み中に教育研究所と連携して開催している「教員のための博物館の日」は、当館の役割を教職員に知っていただくために有効であるため、今後も継続して実施していきたいと考えています。

＜二次評価（美術博物館協議会委員による評価）＞

評価の中央値：A

・子供たちへの教育普及事業は極めて重要です。さらなる事業の充実を期待します。

・市内学校との連携や実習生の受け入れ等、取り組みが行われている一方で、館内の動線において工夫と改善の余地が大いにあると思います。

⑶　資料の収集、保存

【方針】

苫小牧周辺地域の資料を、「苫小牧市美術博物館資料収集方針」により収集し、適正な管理の下に保存するとともに他館との連携を行い、情報共有を図ります。

＜一次評価（美術博物館による自己評価）＞

令和４年度の収集資料は自然６点、芸術３点、合計９点でした。資料の増加状況に関しては、年度毎に寄贈申込みの件数が異なります。また、近年は重複する資料をお断りするなどの措置をとっているため減少傾向にあります。しかし、今後は老舗店の

閉店などによる歴史資料の増加、郷土作家の没後に遺族からの寄贈の申し込みも予想され、変動が見込まれます。博物館開館から 39 年、美術館設置から 10 年が経過し、収蔵庫の狭隘化が課題となっています。一方、資料の貸出しについては、原則、館同士の相互貸借として活用するほか、研究機関への調査を目的として行っています。令和４年度は、当館所蔵資料の写真や映像等のデータ提供のほか、アイヌ資料に対する需要が目立っています。

＜二次評価（美術博物館協議会委員による評価）＞
評価の中央値：A
・資料の整理を進めるべき
・収蔵品や標本を適切に管理するための環境整備により力を入れて欲しい。北大研究林にも同様の問題があり、どうしても優先順位が上がらない問題があります。
・未整理資料があれば、速やかに整理するようお願いします。
・資料の整理が長年の課題となっています。ボランティアの参加を少しずつ進められないものでしょうか。

⑷　調査研究活動
【方針】
　自然、歴史、考古、文化芸術に関する基本的な調査研究のほか、収蔵する資料に必要な調査研究活動を行います。

①　収蔵資料に関する調査研究を推進します。
②　樽前山麓及び勇払原野を中心とした、苫小牧周辺地域に関する調査研究を行います。
③　大学などの高等教育機関、他都市館園などと連携を深め、グローバルな視野で苫小牧の発展に寄与する調査研究を行います。

＜一次評価（美術博物館による自己評価）＞
　日本博物館協会の令和元年度の全国 2,314 館の調査結果では「展示活動」にもっとも力を入れている館は全体の 64.3%で突出して高い傾向にあります。一方、「調査研究」は 6.8%「収集保存」は 8.1%で年々減少傾向にあります。また「教育普及活動」も 18.0%で増加傾向にあります。ここから見て取れることは、館の活動を目に見える形で社会に示すためには、教育普及活動や展示活動が重要視されていることです。
　また、特別展・企画展開催の全国平均は年 3.7 回、年間３～４回の開催が一般的となっています。全国平均比でおよそ２倍の展示会を実施している当館では、調査研究は主に次年度以降の展示会にむけての位置付けとなっており、特別展「芸術の都ウィーンとデザインの潮流」及び企画展「あみゅー大博覧会２０２２」の記録集や企画展「生誕 100 年記念　能登正智展　青い風を見つめて」の図録の発行にみられるよう

に、展示事業と調査研究は一体であり、関連事業としての教育普及事業も有機的に結びついています。展示会開催のためには、数年前から調査が必要であり、こうした現状を理解していただくよう、自助努力を続けるほかこれまで以上に発信する必要があります。

＜二次評価（美術博物館協議会委員による評価）＞
評価の中央値：A
・調査研究活動の成果を様々な事業の実施によって市民へ還元していくことは、公立施設の重要な役目と考えています。
・職員（学芸員）さんたちはいつも忙しそうな印象です。調査研究の時間を確保するのは難しいのでは？特に自然系の担当は一人のみなので拡充をお願いしたいです。

⑸　管理運営
【方針】
　複合施設の美術博物館として、施設の安全面と市民の利便性を考慮して、使いやすい施設を目指します。
①　安心できる美術博物館として施設の改善に努め、館内利用の快適度を高めていきます。
②　事業の質を担保しながら、経営的な視点を持って効率的に運営・管理します。
③　すべての人にとって利用しやすい環境を整えます。

＜一次評価（美術博物館による自己評価）＞
・施設・設備については、全体が老朽化しているため、維持管理のため独自の点検を行っています。職員同士の見直しによる案内表示等の改善を図っていますが、今後は市建築等の専門職員の意見も反映させたいと考えています。
・運営・管理については、全職員で週 1 回の定例会議を開き、担当者間のミーティングを随時行うなど、緊密なコミュニケーションを行って事業を進めていることができています。入館者の目標については、年間 32,500 人、特別展が 5,000 人、企画展は各回 3,000 人の目標を設定しています。
・広報については、「美術博物館だより」や「びとこま」など紙媒体のものを発行したほか、ホームページ、フェイスブック、エックスを運用し、利用者の利便性の向上を図っています。
・市民参画では、NPO 法人樽前 arty プラスと連携した子ども広報部「びとこま」の活動など、市民や外部機関と協力した事業を展開しています。

＜二次評価（美術博物館協議会委員による評価）＞
評価の中央値：A
・利用者からエントランスでの対応がないので戸惑う。初めての人は動線が分かりに

くいとの声多し。
・老朽化している施設設備に対する改修の予算をつけてほしい。
・津波対策は大丈夫でしょうか？人命はもちろんのことですが、資料も浸水から守ることができるようお願いします。
・館内の動線において工夫と改善の余地が大いにあると思います。
・協議会は年２回開催されているが、市の決定事項の承認機関にしかなっていない。回数を増やして新たな試みについて議論すべき。
・これからも宣伝、広報活動を頑張ってください。インスタグラムの開設も待っています。
・協議会が館の運営に参画できていない。

４　自己点検評価シート（一次・二次評価）

一次評価及び二次評価の評価基準は以下に定める。

Ａ：成果を挙げている（９０－１００％）

Ｂ：ほぼ達成している（７０－８０％）

Ｃ：より一層努力を要する（５０－６０％）

Ｄ：努力が結果に結びついていない。方法そのものについて再検討を要する（５０％未満）

Ⅰ　展示事業

事業活動計画	一次評価（美術博物館による評価） 評価指標 評価・指標に対する実績・評価理由	二次評価（委員による評価） 評価・コメント
博物館と美術館の複合施設として、様々な展示活動を実施します。	**１　展示方針を策定し、計画的に展示を行っている。** ＜評価＞Ａ　苫小牧市美術博物館実施計画（３か年計画）を策定しているほか、単年度ごとに事業計画を策定している。 **２　収蔵品展の開催及び常設展示の定期的な更新を実施している。** ＜評価＞Ｂ　１・２階の収蔵展示室の定期的な更新や特集展示などを実施している。また、２階のロビーを利用して、各分野の資料を順次展示している。 **３　展示図録やガイドブックを作成・配布（販売）している。** ＜評価＞Ａ　各展示会で展示資料リストのほか、特別展「芸術の都ウィーンとデザインの潮流」及び企画展「あみゅー大博覧会２０２２」の記録集、並びに企画展「生誕 100 年記念　能登正智展　青い風を見つめて」の図録を作成した。 **４　館の専門スタッフ（学芸員など）による展示の案内・解説を、定期的に実施している。** ＜評価＞Ａ　各展示会において担当学芸員によるスライドトーク等を実施した。	＜評価（中央値）＞Ａ ＜内訳＞Ａ：８　Ｂ：０　Ｃ：２ ＜意見＞ ・事業展開のペースがマンネリ化している。特別展・企画展の期間を短くし、回数を多くすることを考えてほしい。 ・様々な展示を企画していて、とても工夫されていると思います。 ・美術館としての常設展示への意欲が低い。 ・企画展に比べ、常設展示物や所蔵品に対するＰＲが弱いように見受けます。もっとアピールして良いのでは。

	５　複合施設としての特性を生かした展示活動をしている。 ＜評価＞Ａ　企画展「あみゅー大博覧会２０２２」では、美術、歴史、考古、自然の４分野の資料を５つのテーマに分けて展示し、当館が幅広い分野の資料を収蔵していることと、資料を収集する意義を紹介し、多角的な視点を与える展覧会になった。	
	６　他館や他団体との資料貸借により、幅広い展示活動を実施している。 ＜評価＞Ａ　各展示会において、道内博物館、美術館等や作家所蔵の資料を借用した。特に特別展「芸術の都ウィーンとデザインの潮流」では、監修者の協力により、所蔵館と信頼関係を構築することができ、19 世紀末ウィーンの巨匠グスタフ・クリムトの作品を借用し、展示するなど格調高い展覧会を開催することができた。	
	７　アンケート結果により、来館者の高い満足度指数を得られている。 ＜評価＞Ａ　各展示会においてアンケートを実施しており、いずれの企画についても８割以上の「良い」という評価を得ている。	

Ⅱ　教育普及事業

事業活動計画	一次評価（美術博物館による評価） 評価指標 評価・指標に対する実績・評価理由	二次評価（委員による評価） 評価・コメント
子どもから高齢者まで、幅広い市民を対象にした多彩な教育普及事業を実施します。	**８　教育普及活動を策定した方針のもとに計画的に行っている。** ＜評価＞Ａ　苫小牧市美術博物館実施計画第３期及び令和４年度苫小牧市美術博物館事業計画に基づき、教育普及活動を実施した。	＜評価（中央値）＞Ａ ＜内訳＞Ａ：６　Ｂ：４　Ｃ：０ ＜意見＞ ・子供たちへの教育普及事業は極めて重要です。さらなる事業の充実を期待します。 ・市内学校との連携や実習生の受け入れ等、取り組みが行われている一方で、館内の動線において工夫と改善の余地が大いにあ

	9　教育普及活動について参加者数の目標を設けている。 ＜評価＞B　展示会等の観覧者数の目標は設定している(特別展 5,000 人、企画展 3,000 人)。各学芸員が実施している行事等は館全体としての目標は設定していないが、担当学芸員において、都度目標（定員）を設定した。 **10　複合施設としての特性を活かした教育普及事業を実施している。** ＜評価＞A　専門分野の違う学芸員が協力して「美術博物館大学講座」を９回（延べ 615 名)、「無料観覧日」を２回（1,314 名)、博物館実習（５名）を実施した。 **11　他館・大学・民間団体等と連携したセミナー、研究会、ワークショップ等を行っている。** ＜評価＞A　美術博物館大学講座では７つの機関に講師を依頼して実施したほか、各展覧会の関連イベントで他団体等から講師を招いて講演やワークショップなどを６回実施した。また、樽前 arty プラスと共催で子ども広報部「びとこま」を８回実施した。 **12　博物館の利用方法についての講座、学芸員の仕事を体験する講座、バックヤードツアーなど、館の利用を支援する教育普及活動を実施している。** ＜評価＞A　学校の教員を対象とした「教育のための博物館の日」を１回（33 名)、トンボの採集と標本づくりを１回（18 名)、中学生の職場体験を４回（15 名)、博物館実習を１回（５名）実施した。 **13　来館者用の図書・情報コーナー（室）を設けている。** ＜評価＞B　１階に情報コーナー、２階に図書コーナーを設置している。	ると思います。

	14　出張・移動活動（アウトリーチ活動）を行っている。 ＜評価＞Ａ　講師派遣による講座を 16 回（703 名）、「みゅーじあむ in スクール」を２回（52 名）実施した。	
	15　学校と連携した行事や教員向けの研修会を充実させている。 ＜評価＞Ａ　市内小学校３、４年生を対象にした「郷土学習」を 22 校（1,409 名）、学校への講師派遣を小学校４校に４回（373 名）、「みゅーじあむ in スクール」を小学校２校（52 名）、職場体験を中学校４校（15 名）に実施した。	
	16　博物館実習の実習生を受け入れている。 ＜評価＞Ａ　８月 18 日から 27 日までの８日間、実習生５名を受け入れ、学芸員がそれぞれの専門性を生かしたプログラムを実施した。	
	17　アンケート結果等により、参加者の高い満足度指数を得られている。 ＜評価＞Ａ　ほとんどの行事においてアンケートを実施し、５段階評価の満足度の平均において最高評価か次点評価を得られている。今後もアンケートの結果を活かした美術博物館の運営に努めていく。	

Ⅲ　資料の収集、保存方針

事業活動計画	一次評価（美術博物館による評価） 評価指標 評価・指標に対する実績・評価理由	二次評価（委員による評価） 評価・コメント
苫小牧周辺地域のある資料を、「苫小牧市美術博物館資料収集方針」により収集し、適正な管理の下に保存します。	**18　館として資料収集の方針を策定している。** ＜評価＞Ａ　「苫小牧市美術博物館資料収集要綱」を策定している。	＜評価（中央値）＞Ａ ＜内訳＞Ａ：５　Ｂ：３　Ｃ：２ ＜意見＞ ・資料の整理を進めるべき ・収蔵品や標本を適切に管理するための環境整備により力を入れて欲しい。北大研究林にも同様の問題があり、どうしても優先

	19　法令、条例、倫理規程などを遵守して資料収集するために、館としてガイドラインを策定している。 ＜評価＞Ａ　「苫小牧市美術博物館資料収集方針」「苫小牧市美術博物館資料収集方針に基づく美術資料受入基準」を策定している。 **20　資料の出所・来歴の妥当性、真贋などの検討を外部の専門家を含めて行い、その助言を得て資料の購入・受入れを決定している。** ＜評価＞Ａ　「資料収集方針」に基づき受入等を実施している。美術資料については、原則、資料収集委員会の意見を参考に資料の受入れを行っている。 **21　未整理資料について整理の計画を立てている。資料の修復を計画的あるいは必要に応じて行っている。** ＜評価＞Ｃ　未整理資料の整理については、学芸員個々で少しずつ進めている面もあるが、資料のデジタル化も含め館全体の計画は今後の課題である。 **22　収蔵資料のうちの７割以上について資料情報を記録している。また、資料目録のデジタル化に努め、公開・資料情報の追加・更新を適宜あるいは定期的に行っている。** ＜評価＞Ｃ　寄贈資料等は減少傾向にあるが、情報の記録に努めている。資料の管理としてナンバーリング、デジタル化は今後の課題である。 **23　総合的有害生物管理（ＩＰＭ）の考え方に基づき、日常的に虫菌害の予防措置をとっている。** ＜評価＞Ｂ　燻蒸処理や虫害調査を行っている。今後適切な資料管理を行なうための環境整備を進める。 **24　収蔵品及び展示品の保存・展示環境について温湿度や光量を管理している。** ＜評価＞Ｂ　展示室内では、一部温湿度管理を行っている。	順位が上がらない問題があります。 ・未整理資料があれば、速やかに整理するようお願いします。 ・資料の整理が長年の課題となっています。ボランティアの参加を少しずつ進められないものでしょうか。

	25　展示室内に看視員や監視カメラを配置している。 ＜評価＞Ｂ　特別展では看視職員、企画展ではボランティアによる看視員を配置、防犯対策のため監視カメラを設置している。	
	26　資料の貸出しを認めると同時に、規定・手続きを整備している。 ＜評価＞Ａ　資料の貸出規定を定め、近隣館園等での事業や研究、書籍への画像や情報掲載のために利用されている。	
	27　他館や研究施設と連携し、資料の保存・管理に対する情報を積極的に収集している。 ＜評価＞Ｂ　学芸職員部会、研修会への参加により、他館等との連携はできているが、今後はより一層の管理レベルの向上を図る。	

Ⅳ　調査研究活動

事業活動計画	一次評価（美術博物館による評価） 評価指標 評価・指標に対する実績・評価理由	二次評価（委員による評価） 評価・コメント
自然、歴史、考古、文化芸術に関する基本的な調査研究のほか、収蔵する資料に必要な調査研究活動を行います。	**28　専門職の学芸員が常勤として配置されている。** ＜評価＞Ａ　令和４年度は８人の専門職の学芸員を配置している（美術２名、歴史２名、書１名、考古２名、自然史１名）。 **29　学会の大会や他館・他機関主催の研修や研究会に学芸員を派遣・参加させている。また、参加することを、館の業務として認めている。** ＜評価＞Ａ　日胆地区博物館等連絡協議会の研修会に２名、北海道美術館学芸員研究協議会に１名、全国美術館会議学芸員研修会に１名、アイヌ文化ネットワークオンライン研修会に３名が業務として参加した。	＜評価（中央値）＞Ａ ＜内訳＞Ａ：６　Ｂ：４　Ｃ：０ ＜意見＞ ・調査研究活動の成果を様々な事業の実施によって市民へ還元していくことは、公立施設の重要な役目と考えています。 ・職員（学芸員）さんたちはいつも忙しそうな印象です。調査研究の時間を確保するのは難しいのでは？特に自然系の担当は一人のみなので拡充をお願いしたいです。

	30　展示や教育普及、調査研究、保存など学芸員の活動の成果を、館として刊行物等で公開している。 ＜評価＞Ａ　当館発行の紀要８号に、当館学芸員３名の論文を掲載した。内容はホームページでも公開している。	
	31　館として、調査研究の方針・計画を策定している。 ＜評価＞Ｂ　苫小牧市美術博物館実施計画で方針を策定し、調査研究活動に努めている。	
	32　収集している資料と関連する学問分野について、調査研究に取り組み、館として専門誌・専門書を購入したり機材・器具を設備したり、調査研究を進めるための環境整備（予算措置等）を行っている。学芸系職員の勤務時間・職務内容について、調査研究の遂行のための配慮を加えている。 ＜評価＞Ｂ　活動調査研究費として必要な予算を計上しており、調査研究遂行のための予算措置はなされている。ただし、調査研究のための勤務時間の確保や環境整備については課題といえる。	
	33　資料の管理・修復・保存、展示・教育普及活動の理論や方法、博物館経営など、博物館学分野での調査研究に取り組んでいる。 ＜評価＞Ｃ　展示に活かす標本製作の試みや研修会に参加するなど個々での活動はあるが、博物館学分野での調査研究までに至っていない。	
	34　地域への貢献を視野に、苫小牧を中心とした地域や関連資料について、調査研究に取り組んでいる。 ＜評価＞Ａ　各分野において、苫小牧を中心とした研究課題を設定している。その成果を各展示、講座、紀要などを通して市民に還元した。	

	35　他館や他研究機関と共同研究を行っている。 ＜評価＞Ａ　国立アイヌ民族博物館と勇払弁天地区で発見された丸木舟の共同研究を継続している。	
	36　複合施設としての特性を活かした調査研究活動を実施している。 ＜評価＞Ａ　特別展、企画展を開催するための資料調査に基づき展示会を開催し、記録集を作成するなどの成果があった。	

Ⅴ　管理運営

事業活動計画	一次評価（美術博物館による評価） 評価指標 評価・指標に対する実績・評価理由	二次評価（委員による評価） 評価・委員コメント
複合施設の美術博物館として、施設の安全面と市民の利便性を考慮して、使いやすい施設を目指します。	**37　施設の維持・改善について計画を立てている。** ＜評価＞Ｂ　施設・設備全体が老朽化しているため、施設の維持管理について、独自点検を行っているほか財政当局と協議している。 **38　危機管理マニュアルを整備し、防災・防犯・救急・救命訓練を定期的に実施している。** ＜評価＞Ａ　定期的に防災・消防訓練を実施している。 **39　バリアフリー化について、改善が必要な個所を把握するための自己点検を実施している。** ＜評価＞Ａ　適宜点検し、「苫小牧市バリアフリー特定事業計画」に基づき実施している。 **40　案内表示に関して、できる個所からまたは計画的に改善を行っている。来館者の動線に関して目視調査などによって現状を把握し、必要な改善を行っている。** ＜評価＞Ｂ　現状職員同士の見直しによる改善を図っているが今後、市建築等の専門職員の意見も反映させたい。	＜評価（中央値）＞Ａ ＜内訳＞Ａ：５　Ｂ：４　Ｃ：１ ＜意見＞ ・利用者からエントランスでの対応がないので戸惑う。初めての人は動線が分かりにくいとの声多し。 ・老朽化している施設設備に対する改修の予算をつけてほしい。 ・津波対策は大丈夫でしょうか？人命はもちろんのことですが、資料も浸水から守ることができるようお願いします。 ・館内の動線において工夫と改善の余地が大いにあると思います。

	41　館内の美化に努めるほか、休憩コーナーを設置するなど利用者の利便性向上に努めている。 ＜評価＞Ａ　エントランスおよびラウンジを無料で開放するなど、利用者にとって心地よい館内空間を意識して努めている。	
	42　利用実態に応じて開館時間を延長したり夜間開館を行ったり、開館時間の設定の見直しを行っている。 ＜評価＞Ｂ　夜間開館を１回実施した。今後も利用者の利便性を考慮し、検討していく。	
	43　質問・相談・問い合わせができる体制（窓口、電話・ファックス、手紙、インターネットの活用など）を整えている。 ＜評価＞Ａ　エントランスの学芸員相談コーナーや、ホームページにおいて利用者の意見を広く聞く体制を継続している。	
事業の質を担保しながら、経営的な視点をもって効率的に運営・管理します。	**44　館と設置者の間の連絡調整を定期的に行っている。** ＜評価＞Ａ　教育委員会のほか、市の関連部署との連携を行っている。	＜評価（中央値）＞Ａ ＜内訳＞Ａ：８　Ｂ：２　Ｃ：０ ＜意見＞ なし。
	45　館の事業や業務に関して、意思決定のための会議を定期的に開いている。 ＜評価＞Ａ　週１回の全職員での定例会議や学芸員のみ参加する学芸会議、担当者間でのミーティングを随時行っている。	
	46　展覧会ごとの観覧者数について目標を設定し、目標を達成するために年度毎及び中長期的な計画を立てている。 ＜評価＞Ａ　入館者数の目標値は市基本計画(2018～2022 年度)で 32,500 人と設定している。また、各展示会の観覧者数については、特別展が５千人、企画展は一展示会につき３千人の目標を立てている。	

	47　事業面、管理運営面など全般にわたる自己評価及び外部評価を実施している。 ＜評価＞Ａ　平成 26 年度より美術博物館運営協議会委員による外部評価「自己点検評価（本評価)」を実施している。 **48　年報、要覧やインターネットを通して、事業実績や館の運営状況を公開している。** ＜評価＞Ａ　毎年発行している年報、紀要、美術博物館だよりを、ホームページ上で公開（ＰＤＦ）しているほか、中央図書館へデータを提供し、電子図書館でも閲覧可能な状態にしている。 **49　外部資金の効果的な導入を実施している。** ＜評価＞Ｃ　可能な限り補助金等の外部資金の活用を心掛けている。	
全ての人にとって利用しやすい環境を整えます。	**50　館として広報宣伝計画を策定している。** ＜評価＞Ｂ　毎年度、秘書広報課に次年度の計画を提出し、計画に沿って市広報誌に掲載している。 **51　館のホームページを開設し、掲載内容を適時・適切に更新できる体制をとっている。** ＜評価＞Ａ　ホームページは定期的に情報を更新し、最新情報を公開している。 **52　館の広報誌（ニュース・レターなど）を発行している。** ＜評価＞Ａ　「美術博物館だより」や、子ども広報部の広報誌「びとこま」を発行している。 **53　入館者数増加に向けた取り組みをしている。** ＜評価＞Ｂ　利用者のニーズを反映した企画の検討及び新聞への情報掲載、関係機関への印刷物の配布を行っている。併せて、フェイスブックとツィッター、ブログを運用し、利用者への情報発信と利便性の向上を図っている。	＜評価（中央値）＞Ａ ＜内訳＞Ａ：７　Ｂ：１　Ｃ：２ ＜意見＞ ・協議会は年２回開催されているが、市の決定事項の承認機関にしかなっていない。回数を増やして新たな試みについて議論すべき。 ・これからも宣伝、広報活動を頑張ってください。インスタグラムの開設も待っています。 ・協議会が館の運営に参画できていない。

	54　館の利用実態や動向、利用のニーズを知るために、館利用に関するアンケートやモニター調査を実施している。 ＜評価＞Ａ　各事業や館自体についてのアンケートを実施し、利用者のニーズの把握に努めている。	
	55　「友の会」を支援すると共に「ボランティア制度」を導入している。 ＜評価＞Ａ　登録調査研究支援団体として、「郷土文化研究会」、「博物館友の会」、「美術館友の会」を支援している。併せて、「ボランティア制度」を導入し、展示会の監視活動等を実施している。	
	56　地元ＮＰＯなどと関わる中で、市民が館の事業に参画する機会を設けている。 ＜評価＞Ａ　ＮＰＯ法人樽前 arty プラスと連携した子ども広報部「びとこま」の活動、イベント開催時にボランティアへ協力依頼をするなど、市民や外部機関と協力した事業を展開している。	
	57　「博物館協議会」などを通じて市民に、館の運営に参画してもらっている。 ＜評価＞Ａ　「美術博物館協議会」を設置し、年 2 回開催している。	
	58　地元の企業・団体（観光協会、商工会議所など）と協賛・協力し、事業を実施している。 ＜評価＞Ａ　各展示会において地元企業や新聞社の後援を得ているほか、展覧会の内容に応じて、追加で後援を得ている。また、特別展については、商工会議所の協力を得てチラシ等の配布を行っている。	

5　これからの美術博物館のあり方について

苫小牧市美術博物館実施計画（３期目）の基本方針は、地域に関わる資料の収集と保存、学芸員の専門性を生かした調査研究の実施、そして、外部機関や市民団体とのネットワーク強化によって、子どもたちや市民が知的好奇心や自然・文化芸術への学びを深めることができる質の高い美術博物館となるようにするとされている。この観点から、展示事業、教育普及事業、調査・研究活動、資料の収集・保存方針、管理運営の５項目の事業及びそれらを細分化した 58 項目の評価指標について、美術博物館が自己点検評価（一次評価）を実施した。次に、美術博物館協議会委員 10 名が、一次評価の結果、美術博物館事業報告等の資料及び事業の視察などをもとに二次評価を行った。

【総合評価】

美術博物館による自己点検評価（一次評価）では 58 指標のうち 38 指標（66%）がＡ評価、16 指標（28%）がＢ評価、４指標（７%）がＣ評価となった。

美術博物館協議会委員による二次評価では、中央値ではあるがすべての事業がＡ評価となり、コロナ禍にあっても質の高い多岐に渡る活動を実施していると評価された。一方、「資料の収集、保存の方針」や「管理運営」では、ＢもしくはＣ評価をつけた委員が半数を数え、資料の管理や整理を進めるべきといった指摘や、分かりにくい館内の動線を見直すべきとの指摘があった。

今後はコロナウイルスも収束し、社会も大きく変容していくことが考えられる。その波に取り残されることのないよう、既存の概念に囚われることなく、社会の動きを注視し、積極的に社会と繋がりを持つ事業活動を期待する。

令和６年５月

苫小牧市美術博物館協議会
会　長　斎野　伊知郎

苫小牧市美術博物館協議会委員名簿

任期:令和4年6月1日～令和6年5月31日

五十音順/敬称略

氏　名	職業・役職
内海　一弘	苫小牧市美術館友の会　事務局
大塚　志保	苫小牧市立苫小牧西小学校　校長
菊地　綾子	フリーライター
木村　由美	北海学園大学　非常勤講師 苫小牧工業高等専門学校　非常勤講師
斎野　伊知郎	苫小牧郷土文化研究会　会長 【会長】
田中　雅子	苫小牧市立明野中学校　校長
中村　誠宏	北海道大学苫小牧研究林　林長
林　廣志	苫小牧写真連盟　会長 【副会長】
山田　利一	北洋大学　教授
渡邊　愛子	苫小牧市PTA連合会　副会長